

原油価格の大幅な変動の要因、影響と対策

永田 安彦*

要旨

原油価格は近年高い変動性を示しており、その対策の検討が緊急の重要課題となっている。こうした状況下、2010年2月、国際エネルギー機関（IEA）と当研究所共催による石油市場に関する会議が開催された。原油価格の変動性には短期の変動と長期の循環性があるが、国際石油市場の歴史と特徴を踏まえると、価格変動の可能性は常に内在しており、変動そのものは不可避である。しかし、過度の変動を抑制すること自体は可能であり、そのためには市場の機能が十全に働くよう、市場整備が適切に行われること、正確なデータ・情報提供を通じて、市場の透明性向上が進むことが重要である。この点、一連の米国規制当局による市場情報開示や商品市場の規制強化の動きは歓迎されるが、一方で市場の流動性維持、規制の緩い市場への取引のシフト、リスク管理能力等の重要性を考慮した上での取組が重視される。さらに、将来の需要を想定し、開発投資を促進し、市場原理に基づく価格決定と石油消費の効率的な使用等に対して、より明確で一貫した長期の政策努力が求められる。

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp

* (財)日本エネルギー経済研究所 中東研究センター 研究主幹